

## 【樹木の部屋】

### アケビ（アケビ科アケビ属 *Akebia quinata*）

**和名**：アケビ（木通、通草）      **別名**：あけぶ、もちあけび、紫あけび

**英名**：chocolate vine, five-leaf Akebia

キンポウゲ目 蔓性低木      **原産地**：日本、中国、韓国

**花言葉**：才能、唯一の恋      **花の色**：白、紫



← 写真-1 アケビ

撮影日：2019年04月12日

撮影場所：布引ハーブ園  
(神戸市)にて

撮影者：M さん

→ 写真-2 アケビの雄花

撮影日：2019年04月12日

撮影場所：布引ハーブ園(神戸市)にて

撮影者：M さん



← 写真-3 アケビの雌花

撮影日：2019年04月12日

撮影場所：布引ハーブ園(神戸市)にて

撮影者：M さん



布引ハーブ園内で見かけました。  
茎は蔓になって他物に巻き付き、古くなると木質化します。

葉は楕円形で、5枚が掌状につく複葉で互生します。

花は4～5月に咲き、木は雌雄同株ですが、雌雄

異花で淡紫色です。花弁は無く萼片が3枚で雄花の中央部には6本の雄蕊がミカンの房状に、雌花の中央部にはバナナの果実のような6~9本の雌蕊が放射状につきます。雌花の柱頭(先端部)には、甘みを持った粘着性の液体が付いており、花粉がここに付着することで受粉が成立します。雌雄異花で蜜も出さないで、受粉生態にはよくわかっていない点が多いようですが、ハエ類が甘みを持った粘着質を舐めに來る際に受粉していると考えられるそうです。

アケビの仲間は自家不結実性のため、結実をよくするには異品種の混植が必要です。秋に美しい果実を収穫するには、うどんこ病の防除が大切だそうです。

アケビの仲間は全国に自生し、葉が5枚のアケビ(*Akebia quinata*)、3枚のミツバアケビ(*A. trifoliata*)、両者の雑種といわれるゴヨウアケビ(*A. x pentaphylla*)などがあります。

果実は長楕円形の裂開果で、秋に熟すと縦に裂け、中から白い果肉と種子が現れます。甘い香りを放ち、種の周りにある半透明の果肉は食べることができます。

熟すに従って自然に開花する様子「開け実」がアケビの語源となったとの説があるそうです。なお、「アケビ」は果実のみを指し、木全体を呼ぶ場合は「アケビカヅラ」というのが正しいそうです。

アケビは、実以外にも、若菜を食したり、ツルを利用して籠を編んだり、木部から利尿剤を生成するなど、人間の生活には昔から関係が深い植物です。